

Title	追悼 生田正輝先生：生田先生を偲ぶ
Sub Title	
Author	久保崎, 喜太郎
Publisher	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
Publication year	2014
Jtitle	メディア・コミュニケーション：慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要 (Keio media communications research). No.64 (2014. 3) ,p.167- 167
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20140300-0167">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20140300-0167</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.



## 生田先生を偲ぶ

久保崎喜太郎

思いがけず、生田先生が享年 89 歳で旅立って逝かれました。心より先生に哀悼の意を表します。

生田先生と僕のご縁の始まりは、僕が日吉から三田に進学し、新聞研究室に入室させていただいた 1953 年（昭和 28 年）の新学期からでした。その後、幾多変遷の時を経て、先生の晩年まで親しくご厚誼いただいたことを、今は深く感謝しています。

三田に進学した僕は、新聞研究室の授業を受講すると共に、実習の「慶應義塾大学新聞」作りにも参加しました。以来、生田先生には、時に先生として、又、時に先輩として、いろいろと親しくご指導をいただきました。

当時の新聞研究室の先生方は、新聞社の現役のベテランの方々でしたから、授業は実務に即したお話が多く、将来マスコミへ就職希望の僕らは、諸先生の授業を熱心に受けました。

「新聞原論」を講義された生田先生ご自身も慶應義塾の助手時代、時事新報社へ内地留学された経験がおありで、永田記者倶楽部で首相官邸の当番記者をされた頃の体験談を交えてお話をされることもあり、当時は新進気鋭の先生の授業を興味深く聴講させていただきました。

あの頃を振り返ってみると、当時の授業は、即、実務に通じる授業だったと思います。当時の先生方や教室の様子は、今も懐かしく思い出します。

当時は、まだ研究室が発足して間もない頃でしたが、研究室の実習紙、「慶應義塾大学新聞」の塾内における活躍もなかなか盛んでした。

生田先生を始め、当時の研究室の諸先輩は、機会ある毎に実に親身になって我々後輩の面倒を見、指導してくださいました。卒業後も研究室の催事にはよく出席して下さったので、今でも親しく先輩と付き合い合っています。

戦争という大変な経験を経てこられた諸先輩にはどなたにも、気骨があって、心やさしく人情に厚い、心温かなものを感じていました。それは、生田先生を始め当時の研究室の諸先輩が、多感な青春時代に太平洋戦争と遭遇し、戦線や国内で言語に絶するような過酷な戦争体験を経てこられたからだろうと推察しています。

普段、生田先生はそのような話をされることはありませんでしたが、その経験が根底に在って、先生ご自身も、生涯を力強く生き抜かれたのだらうと思っています。

塾を卒業後、朝日放送に勤めた僕は、1968 年（昭和 43 年）頃、塾生の当社への就職の件で、三田を訪ねたことがあります。当時、三田山上の塾舎のあちこちに机や椅子でバリケートが築かれている情景を見て愕然としながら、塾の状況を大変憂慮したことがあります。

生田先生は、この紛争直後の 1970 年（昭和 45 年）から、塾の常任理事として行政職に就かれ、全塾的な大学改革の任に当られたということですが、当時の先生は大変ご苦労されたことと思います。

僕は三田へ進学して、新聞研究所で学ぶと同時に、社会学を「米山桂三ゼミ」で学びました。このご縁で、当時の米山先生、生田先生、それに当時大学院生で研究室の先輩だった十時巖周先輩にも親しく接していただく機会に恵まれました。お陰で、尊敬する先生や先輩に直に接し、親しくその教えを受けられるという機会に恵まれ、実り多く豊かな塾生時代を送ることができたのは幸運でした。今でもその出会いに感謝しています。

生田先生は、僕が放送業務に携わっていたこともご存じだったので、日本新聞学会、情報通信学会、電波監理審議会などで会長を務められ、ご活躍されたお話もいろいろと伺わせていただきました。マスコミ界の広範囲の分野に貢献されたことを知り、感服し尊敬の念を強くしました。

幸いにも、2006 年（平成 18 年）3 月に先生を囲み、交詢社で「新聞研究所設立 60 周年」をお祝いできたことを喜んでます。

久保崎喜太郎（1955 年（昭和 30 年）法卒 元朝日放送）